

小山田エリアにおける里山環境再生・活用拠
点施設のあり方に関する基本構想 素案
市民意見募集 実施結果

2024年7月

町田市経済観光部農業振興課

「小山田エリアにおける里山環境再生・活用拠点施設のあり方に関する

基本構想 素案」市民意見募集実施結果

2024年6月に公表した「小山田エリアにおける里山環境再生・活用拠点施設のあり方に関する基本構想 素案」について、市民の皆さまのご意見を募集しました。

1 意見の募集期間

2024年6月1日(土)～2024年6月17日(月)

2 意見募集の方法

◆以下の施設での資料閲覧・配布

農業振興課(市庁舎 9 階)、市政情報課、広聴課(市庁舎1階)、
各市民センター(忠生、鶴川、南、なるせ駅前、堺、小山)、
各連絡所(町田駅前、木曽山崎、玉川学園駅前、鶴川駅前)、
各市立図書館(中央、さるびあ、鶴川、鶴川駅前、金森、木曽山崎、忠生、堺)、
町田市民文学館

◆町田市ホームページに資料を掲載

◆「広報まちだ」(2024年6月1日号)にご意見募集記事を掲載

3 寄せられたご意見の件数・内訳

電子メール、ファックス、郵送を通じて、24名の方から、51件のご意見をいただきました。ご意見の項目別の内訳は以下のとおりです。

※おひとりから複数の趣旨のご意見をいただいた場合は、趣旨ごとに分割している場合があります。

※一部の特定の団体や企業名、URL に関する記載については[〇〇]表記としております。

意見項目	ご意見の数
1. 事業全体に関するご意見	12件
3. 整備候補地に関するご意見	12件
4. 施設整備に関するご意見	11件
5. 地域連携・民間活力導入に関するご意見	6件
6. 施設運営に関するご意見	6件
7. 地域の街づくりに関するご意見	4件
合計	51件

4 ご意見の概要と市の考え

いただいたご意見と、それに対する市の考え方は次のとおりです。

No.	ご意見	市の考え方
1. 事業全体に関するご意見		
1	小山田の活性化や里山環境再生に資する事業として大いに期待します。	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ございます。
2	【市の関連計画等】 ・「第 1 章 1 市の関連計画等」を始めとして、この地域には既に町田市が策定した「小田急多摩線延伸新駅を中心とした小山田周辺まちづくり構想（2016 年 3 月）」があるにもかかわらず、今回の構想素案では全く触れていません。この地域にとって非常に重要な市の考え方なので触れていただくと共に、小山田エリアでの二つの構想の関連性や、共通した考え方など、市のこの地域に対する考え方を整理して、きちんと記述していくことが市の責務であると考えます（都市政策課と農業振興課で地域に対する考え方の整合性を保つため）。	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ございます。 本構想は構想（本編）1 ページで示すとおり「まちだ未来づくりビジョン2040」、「町田市都市づくりのマスタープラン」等を上位計画とした「町田市里山環境活用保全計画」に基づき作成しております。 「小田急多摩線延伸新駅を中心とした小山田周辺まちづくり構想」は、新駅を中心とした小山田周辺の目指すべき将来の姿を示したもので、鉄道駅の新設という大きな契機を捉え、小田急多摩線延伸の取り組みと連動して新駅周辺のまちづくりを進めていくこととしています。本事業の推進にあたりましても、鉄道事業の取組と連動し、計画的に進めてまいります。
3	「新しい里山づくり」を推進する拠点施設は、「道の駅」として整備してください。という私たちの提案の切実なお願いです。 私たちのごみの資源化施設周辺地域まちづくり協議会は、2013 年 10 月の市当該施設建替協議を契機に、忠生地域再生のまちづくり要望のパリュアアッププラン(2015 年 3 月)やランドデザイン(2019 年 12 月)を策定し、町田市と協働のまちづくりを推進していま	本構想は構想（本編）1 ページで示すとおり「まちだ未来づくりビジョン2040」、「町田市都市づくりのマスタープラン」等を上位計画とした「町田市里山環境活用保全計画」に基づき作成しております。 町田市では「町田市里山環境活用保全計画」に掲げる「持続可能な里山環境の保全」を実現するため、多様な主体と連携・協働し、時代に即した経済・社会・環境の新たな循環の

	す。 そして、昨年からは忠生地区全体の計画未着手事業を具体的にするため、小山田地区まちづくり団体らと連携協力し意見交換会や地元関係者の話し合いを重ねるなど鋭意まちづくり実現を進めています。 私たちの計画は、忠生地区の地域再生の方向の一つは、今ある忠生・北部の自然資源を活用としたネットワークと拠点施設の整備であります。 そして、里山の拠点施設整備として、計画策定の当時の早くから、地元小山田地区自治会の切実な「道の駅の設置」の要望を受け計画提案し、モノレール路線形上の広軌道の新規都市計画道路沿いに自然豊かな里山などを活かす”忠生ならではの”まちだならではの”道の駅の設置を市への重要な要望事項にしています。 私たちの道の駅の設置は、民間企業活力の導入を踏まえて、集客力や採算性、賑わい、雇用などが見込めることが重要なことから、モノレール路線沿いの駅付近に広い道路に大規模な駐車場を擁する大きな敷地に、全国的な展開の農林産物直売所・体験農林業(近くの奈良ばい谷戸など)・おみあげ・レストラン・カフェ・休憩・テラス・コンビニ・イベント・交流・情報発信・宿泊・地域防災などの多機能を有する施設を考えています。 市は、都市計画づくりのマスタープランの策定(2022 年 3 月)において、多摩都市モノレール沿線における「忠生・北部エリアの“みどりと暮らしの関係を”つくる”プロジェクト」としてその実現	構築(新しい里山づくり)を目指しています。 本施設は、小山田エリアにおける里山環境の再生と活用を推進する「新しい里山づくり」の中核的な役割を担う施設として整備し、周辺の施設や既存の活動と連携し、活動の支援や助言。コーディネートなどを行い、里山の整備や里山に関わる人材の育成や確保、木材などの里山資源の活用促進・普及啓発に取り組めます。 本構想の策定にあたりましては、これまで地域の方々と共に、ワークショップや意見交換会を実施し、検討を重ねて参りました。 今回公表しました構想素案の内容は、2022 年度に実施したワークショップ及び 2023 年度に実施した意見交換会にて、地域の皆様からいただきましたご意見を受けてまとめております。 なお、本施設は、いわゆる「道の駅」的な拠点施設の整備として、小山田エリアの道路状況や交通量を踏まえながら、検討を進めてまいります。 貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
--	---	--

	するための取組みを示しています。 また、市は、里山環境活用保全計画の策定(2022 年 3 月)などに基づき、この度は、小山田エリア(図師を含む。)における里山環境再生・活用拠点施設のあり方として、拠点施設のコンセプトは「新しい里山づくり」を推進する施設とし、機能別の整備方針を示しています。 市で示された取組みや方針は、私たちのまちづくり計画の取組みと同じです。 是非とも、コンセプトを同様にし「新しい里山づくり」を推進する拠点施設は、事業の実現性や持続性などの観点から道の駅として位置づけ活かし、整備して頂きたい。 なお、例えば、道の駅がまちだの里山の中央部に立地できれば、名称を〈仮称〉「道の駅まちだ里山」、最寄りのモノレール駅名も〈仮称〉「道の駅まちだ里山」にしてください。この施設を“選ばれるまちまちだ”の売りにしてください。 以上	
4	・将来の道路計画との整合など。 現在の町田 3・4・40 号道路は、モノレール延伸などとも関連して、いずれ 3・4・40 号、155 号と接続して桜台方面に延びるはず。他方、野中谷戸の狭隘な都道 355 号線は、町田市による緊急改修が不可避なはず。であれば、155 号を町田市道へ、現在の町田 3・4・40 を都道へと、位置づけを変更し、上記の交流拠点は町田だけでなく多摩ニュータウン諸都市にも広域利用される交流拠点として、都の支援による大規模な	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 本施設は、小山田エリアにおける里山環境の再生と活用を推進する「新しい里山づくり」の中核的な役割を担う施設として整備し、周辺の施設や既存の活動と連携し、活動の支援や助言、コーディネートなどを行い、里山の整備や里山に関わる人材の育成や確保、木材などの里山資源の活用促進・普及啓発に取組みます。

	「道の駅」などとしてゆくことも考えられるのではないか。	なお、本施設は、いわゆる「道の駅」的な拠点施設の整備として、小山田エリアの道路状況や交通量を踏まえながら、検討を進めてまいります。 施設名称については、本施設のコンセプト等を踏まえながら検討いたします。 町田 3・4・40 号線の整備や都道 155 号線の位置づけについては、東京都と調整を図ってまいります。
5	要望事項：ネーミングを道の駅とし、「道の駅まちだ里山」の様に里山に在る道の駅をイメージするネーミングにお願い致します。 理由：現バイオエネルギーセンター立替えに伴い周辺町内会・自治会や地域のまちづくり代表と「町田市ごみの資源化施設周辺地区まちづくり協議会」を立上げ、市と協働で意見交換を重ね地域の要望として「バリュウアッププラン」と「グランドデザイン」を策定しました。 上下小山田町内会より忠生地区に道の駅をつくる要望があり、この二つの計画に取り入れた経緯がありますので重ねてお願いしますが道の駅のネーミングを切にお願い致します。	本施設は、いわゆる「道の駅」的な拠点施設の整備として、小山田エリアの道路状況や交通量を踏まえながら、検討を進めてまいります。 施設名称については、本施設のコンセプト等を踏まえながら検討いたします。 貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
6	私は〔団体名〕という団体に所属し、主に週末に小山田地区で里山整備をしているものです。団体加入後の活動経験は 2 年です。 小山田地区に税金を使用して施設(箱もの)を造る必要性はないと思います。里山整備拠点の近くに大善倶楽部という建物が有り、外に仮設のトイレと建物内に水洗トイレがあるので集会やイベ	町田市では「町田市里山環境活用保全計画」に掲げる「持続可能な里山環境の保全」の実現のため、多様な主体と連携・協働し、時代に即した経済・社会・環境の新たな循環の構築（新しい里山づくり）を目指しています。 本施設は、小山田エリアにおける「新しい里山づくり」の中核的な役

	ントを開催するのであれば、その施設の使用で十分だと思います。 地区以外の人が利用する前提で建設されているわけではないと思うので、利用方法は再考しなければいけないとおもいますが。 小山田地区に箱モノを造っても、地区を訪れる目的、やりたいことがなければ、あまり意味が無いと思います。賑わいを創出したいのは理解できますが、税金ですべきことなのか民間に任せれば良いのではないかと思うことも有ります。 里山整備で一緒に活動している人から聞きましたが、40年前の「町田ニュータウン計画」のときに東京都の条例で市街化調整区域に指定され現在の地目を簡単には変更できないという「縛り」が存在し、新たに交流拠点を造るには住居か店舗、駐車場であれば雑地に変更する法的手続きが必要で、今のUR計画の影響でこの条例を覆す新たな条例が必要であるとしりました。 市街化調整区域という「縛り」があるなかで小山田地区の賑わいを創出するのは難しいのではないかと思います。 簡単ではないのは承知しておりますが、新たな条例をつくるのが先ではないでしょうか。	割を担う施設として整備し、周辺の施設や既存の活動と連携し、活動の支援や助言、コーディネートなどを行い、里山の整備や里山に関わる人材の育成や確保、木材などの里山資源の活用促進・普及啓発に取り組めます。 貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
7	第3章 ◇基本構想や拠点施設のコンセプトについて (全体的に) ・拠点施設を核とした里山環境の再生と里山資源の活用が謳われていますが、里山環境をどのように再生していくのか、そのプロセスや将来像が見え	町田市では「町田市里山環境活用保全計画」に掲げる「持続可能な里山環境の保全」を実現するため、多様な主体と連携・協働し、時代に即した経済・社会・環境の新たな循環の構築（新しい里山づくり）を目指しています。 本施設は、小山田エリアにおける

	ません。木材資源の活用が目ざされていますが、これは里山再生をすすめる上で必要であっても、再生するイメージがなければ、ただの無計画な乱伐になるかもしれません。 「新しい里山づくり」を持続的に行うためには、里山と関わる人を増やすだけではなく、まちだの里山の自然（生態系）をきちんと評価し、その生物多様性を高めながら自然資源を持続的に活用していく方法を計画しておく必要があると思います。そうした計画と連動するかたちで拠点施設の基本構想やコンセプトを考えることが重要だと思います。特に、世界的にネイチャーポジティブへと向かう動向を踏まえるならば、里山の生物多様性を豊かにすることが、経済的な価値を生み出していくと想定して、基本構想を考えるべきではないでしょうか。	「新しい里山づくり」の中核的な役割を担う施設として整備し、周辺の施設や既存の活動と連携し、活動の支援や助言、コーディネートなどを行い、里山の整備や里山に関わる人材の育成や確保、木材などの里山資源の活用促進・普及啓発に取り組めます。 木材資源の活用につきましては、現状、人が立ち入ることができない山林を整備（再生）し、それにより発生した木材を資源として活用することを考えております。 貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨につきましては、今後の参考にさせていただきます。
8	これまでの経緯を理解していないあったらイイナという提案です「たぬきと暮らす」を推すたぬきの農作物被害。愛玩動物にはならないこと。開発により生育場所が減っていること。増える交通事故。現状の正直なところを伝えたいので、(剥製に近い触れる)ぬいぐるみを置いたり、実物大パネルでたぬきファンを増やす。(ゆるキャラでなく本物で)たぬき含めた里山全体を守りたいと感じてもらいたい。リス園の来場者も(仕方なく保護された)実際の飼育されたたぬきが見られるなら、小山田にも立ち寄って欲しいと思います。 追伸ー高尾山や川崎生田緑地の博物館の里山展示がとても好きです	町田市では「町田市里山環境活用保全計画」に掲げる「持続可能な里山環境の保全」を実現するため、多様な主体と連携・協働し、時代に即した経済・社会・環境の新たな循環の構築（新しい里山づくり）により、まちだの里山を将来にわたって持続可能なものにすることを目指しています。本施設は、小山田エリアにおける里山環境の再生と活用を推進する「新しい里山づくり」の中核的な役割を担う施設として整備し、周辺の施設や既存の活動と連携し、活動の支援や助言、コーディネートなどを行い、里山の整備や里山に関わる人材の育成や確保、木材などの里山資源の活用促進・普及啓発に取り組

		んでまいります。子どもたちをはじめ多くの方に里山に触れ・楽しむ機会を創出し、里山に関わっていただく人を増やすことで多様な主体の連携・協働による新しい里山づくりを推進し、小山田エリアの里山環境の保全を持続可能なものとしたいと考えております。 貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
9	【整備箇所の選定に向けたシミュレーション】 ・拠点施設を広大な小山田エリアに一カ所とすると、施設整備候補エリアの①～③のいずれの位置であっても、小山田エリア内で遠い地域から不満が出るため、機能を分散化して複数化する方法もあると考えます。施設整備候補③のエリアには、町田市が資源ごみ処理施設を 2037 年度に稼働させる計画があります。この施設に併設して、一部の機能を持たせることなども検討の余地があると考えます。 ・小山田エリア北西部にまとまった市有地があるにもかかわらず、これまで市は活用することを考えてこなかった経過があります。活用するためには、ここを通る都道 155 号線（小山田バス停～多摩市）の拡幅整備が必要であり、きちんと課題に位置付け、早期に着手することが必要と考えます。 ・西山中谷戸は小山田エリアの中央部	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ・「新しい里山づくり」の中核的な役割を担う施設は、どこか一つの場所に整備することが施設の機能を生かす点で望ましいと考えますが、今後、エリア内で分散して整備することもあわせて検討してまいります。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。 ・ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。 なお、都道 155 号線の整備については、東京都へ働きかけを行ってまいります。 ・里山環境の再生や資源の活用に必要な作業路などの整備にあたっ

		ですが市有地も含め耕作放棄地が拡大しています。活用するにしてもそこまでの道が狭く徒歩で行くしかありません。再生・活用するためにも、近くまで車両通行可能な道路を整備すべきと考えます。 ・拠点施設をどこに整備するにしても、この地域の特性として車で集まるが多くなるので、一定規模の駐車場の併設が必要と考えます。	では、「町田市里山環境活用保全計画」に基づき進めてまいります。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。 ・事業採算性の確保の観点からも一定量の駐車場の整備は必要であると考えます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
	10	【その他】 ・里山全体を公共財としての視点からとらえていくことも重要であり、私有地山林などへの不法投棄にも行政が対応（撤去など）できるような仕組みが必要であると考えます。	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 里山における不法投棄については課題であると認識しており、不法投棄を未然に防ぐため、警察と連携したパトロールの強化や地域の皆さまと行う清掃活動などの取組を継続してまいります。 また、来訪者によるゴミのポイ捨てにつきましては、マナー啓発・注意喚起を行う必要があると考えております。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
	11	1. 「小山田エリアにおける里山環境再生・活用拠点施設のあり方に関する基本構想」、以下「構想」と略します。 この「構想」の冒頭「まえがき」に「豊かな自然『里山』」と位置づけ「こうした立地、緑、農、歴史、文化は町田市の魅力の一つであり、価値あ	かつては地域で生活する人々が田畑を耕作し、農閑期には薪や炭にする目的で樹木の伐採を行うなど、地域の人々の生活が営まれてきた「里山」は、適度に人の手が入ることで生物の多様性や良好な景観が保たれていましたが、高度経済成長期以降、人の手が入ることがなくなり、

	る資産・資源」と評価しています。私も同感です。現在、この里山の環境は「倒木」や「不法投棄」の環境悪化が見られるとのこと。しかし、これらの「精神的・経済的な負担」はごく一般的なことで行政が地域と理解協力者などと協力対策をもてば、ある程度解決できるのではないのでしょうか。倒木が何本、何トンだとかゴミなどが何か所、何トンとか、一月毎、日毎ではどうかとか具体的統計的数値・資料がないのでよくわかりません。現状に対して町田市としてはこの具体的対策に人的・財政的対策としてはどのように対応しているのでしょうか。どのような弊害が出ているのでしょうか。このあたりが、「まえがき」では、はっきりしません。そのあたりは、第1章、第2章から検討されたのでしょうか。「町田市未来づくりビジョン2040」から「町田市里山環境活用保全計画」を経て「小山田エリアにおける里山環境再生・活用拠点のあり方に関する基本構想」からなぜ「ワークショップ」などやP13の「機能別整備方針」が策定されるのでしょうか。 「まえがき」では、その問題提起から一段飛躍して「市内の里山環境を活かして、その「価値」をさらに高めて、里山における経済、社会、環境の新たな循環の構築を目指し「新しい里山づくり」に取り組む、そのための中核的役割を担う拠点・施設づくりの在り方となり第3章・第4章の具体化となっています。しかし、豊かな自然の里山価値は、なにも無理して経済、社会、環境の構築など大規模に目指す必要は	放置された山林や農地が増え、そのような場所では、生態系の変化や景観の悪化、不法投棄が行われるなど生活環境も以前と比較して悪化しています。 そこで、町田市では「町田市里山環境活用保全計画」を策定し、「持続可能な里山環境の保全」を目的に、市内外の団体や企業など幅広い主体との連携・協働による、時代に即した経済・社会・環境の新たな循環の構築（新しい里山づくり）し、まちだの里山を将来にわたって持続可能なものにすることを目指すとなりました。 本構想は、小山田エリアにおける里山環境の再生と活用を推進する「新しい里山づくり」の中核的な役割を担う施設として整備し、周辺の施設や既存の活動と連携し、活動の支援や助言、コーディネートなどを行い、里山の整備や里山に関わる人材の育成や確保、木材などの里山資源の活用促進・普及啓発に取り組んでまいります。 持続可能な里山環境の保全を公費だけで賄うことは不可能です。また、民間事業者のノウハウを活用しなければ、里山の整備や里山に関わる人材の育成などの実現は難しく、そのためには、一定程度の収益を確保しなければ持続可能なものにはならないと考えます。 なお、事業者の参画にあたりましては、計画の目的である「里山環境の持続可能な保全」の趣旨を理解し、地域の意向を把握した事業者を選定
--	---	--

	ないのではないのでしょうか。豊かな自然「里山」の価値は、まさに自然環境の保護・保存・整備・育成を大前提に据えるべきではないのでしょうか。 里山自然再生の基本理念がしっかり深めた論議となっていないのではないのでしょうか。 2. しかも気になるのは、「自然」に一番ふさわしくない、「利益第一」の民間事業体に任せることを前提にしていることです。「利益第一」の民間任せになぜするのでしょうか。市税・予算を基本にして里山を守るべきです。 「倒木」や「不法投棄」などは、市税・予算で対応できるはずです。「里山」から新たな「価値」の創出は必要ありません。伐採するような「大木」があるのでしょうか。炭焼き対象の小木はあるようですが、木工事業で「利益」が出るような大量の「木」を一体どのくらい伐採するのでしょうか？どのように商品化するのでしょうか。里山の樹々を伐採すれば山肌が露出したただの小山となり里山本来の姿はありません。 昭和の時代前後、東京でも有名な「小山田みつ葉」をこの里山近辺で育成して重要な農業産業でしたが。 3. (1) 3 「機能別の整備方針」の方針1では、「里山を活用したアクティビティ云々に関連する取組（案）としてアスレチック、マンテンバイク、ロードバイク、トレイルランニングなどが例示されています。里山に人間の動的対応の施設は全くなじめません。里山には、里山の自然の生物動態系があります。	してまいります。 本構想の策定にあたりましては、これまで地域の方々と共に、ワークショップや意見交換会を実施し、検討を重ねて参りました。 今回公表しました構想素案の内容は、2022 年度に実施したワークショップ及び 2023 年度に実施した意見交換会にて、地域の皆様よりいただきましたご意見を受けてまとめております。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
--	---	---

	様々な動植物がそれぞれの環境の中でひっそりとその種の命をつないできました。ここに人間の勝手なパフォーマンスを展開することは、里山の自然を乱暴にも踏みにじることになります。人間がこのような身勝手に里山に接することには許せません。 (2) p 12の「活用イメージ」図も一見のどかな絵図となっていますが、山肌を削り、人間本位の構造物の構築、人間の社会組織の建造物を中心とした広範囲の人工空間に作り替えられています。許しがたい自然破壊、里山抹消のイメージ絵図に見て取られます。 4. その具体的提案として「拠点施設」を想定しています。「候補エリア」を想定し、シミュレーション、前提条件などや市有地の確保、活動団体の特定などを具体化しています。特に「6 民間活力導入の視点」を強調しています。 冒頭指摘しましたが、「民間」活力は、「利益第一」ですから自然・環境保護事業には相応しくありません。必ず何らかの「利益」＝金を生むための人為的な人工的な「利益」＝金を生み出す仕組になります。それが、結局、3. で述べている「機能別の整備方針」という自然・環境保護育成とは真逆な方針となるわけです。 民間活力導入を前提にするから、結果、事業者におもねる事業価格となり、「利益第一」の資本の本能からやがて里山の自然を破壊するという本末転倒の方向になります。民間活用を全面否定はしませんが、この里山対策は、まず、行政が人的にも物的にもそ	
--	--	--

	の中心にあり、大半を負担・拠出すべきです。ボランティアの協力もあります。 里山の価値は、まさに「まえがき」にあるように自然と歴史に耐え、育まれたそのものを整備し保存することそのものが価値ある資産・資源なのです。別にこの里山の自然から、資本を投入し別の価値を生み出す必要はないのです。里山のあるがままの自然の存続そのものが資産・資源です。 5. この「基本構想」は、「まえがき」に散見される里山の評価、「生物の多様性や良好な景観」を経済的価値観に極端に矮小化するトリック手法を駆使しいつのまにか里山を保護育成することを「利益」＝金を生み出す事業にすり変えていることは問題です。他の行政手法などを見ますと歴史的な町並み保存も歴史・文化を尊重し適度で軽度な改善・保全を加える、住民自身の自主規制の仕組みをつくり、適度な行政からの補助金などによって維持されそれが歴史的な街並み・建造物群として関心と評価を得ています。 市は、「利益第一」でなく、いかにこの里山の自然と景観と環境、動植物を保存育成するために市独自でどのくらいの市税・予算、人的要員確保、学術的専門的研究者の協力体制を構築しているのか。町田独自の自然価値をどのように守り育成していくのかその理想をどのようにアピールするのか。その強い志が必要です。また、他の行政体の「環境保全」と比してどのくらいの位置にあるのか。まず、その本気度を示すとともにその対応を最優先する	
--	--	--

	べきだと考えます。 6. 町田の一部国会議員が、「魅力ある北部丘陵構想、1000万人が訪れる北部丘陵里山自然公園」などと公約宣伝しています。とんでもない「北部丘陵里山の全面破壊構想」です。今回の市の「基本構想」と関連性があるのでしょうか。事を成しとげるに「はじめは微細に入り後に極大化」ということもあります。市とこの一部国会議員とすでに一致しているのは、「利益第一」です。警戒すべきことです。 7. さしあたって、ガイド地図パンフの発行・配布、ポイント毎の道案内、わかりやすい地図掲示板、わかりやすい自然観察紹介掲示板、適度なベンチ、トイレ、適度な駐車場などが必要かと思われます。また、人的には、里山ガイド、動植物の保護・観察・育成などのケアする専門スタッフによる密度の濃い対応、対策が必要です。そして、小中高学生への教育学習の整備対策です。 近時、町田市は安易に「民間活力」手法を導入しがちですが、このような行政の果たす役割、責任を採算や民間事業に大半まかせるやり方が、本当に市民にとって良いことなのか、利益になるのか、子孫に継承すべきか、慎重に論議・検討すべきです。 したがって、この「基本構想」のままの具体化には強く反対します。 なお、パブリック・コメントの提出制限期間が短すぎます。せめて2か月は必要です。 よろしくお願ひします。 以上	
--	--	--

	6月2日のワークショップで決定報告された基本方針1～4の内、今すぐ可能と思われる項目を選択し、先ずは実行に移すべきと思います。施設完成まではまだ時間がかかります、施設完成までの時間を有効にするため、また施設建設のリサーチも兼ねて以下の内容を提案致します。 ●今すぐ実行可能なアイデア アクティビティについての提案 コース散策路の案内 1. ワークショップ参加者を中心としたボランティアによる散策路の整備及び散策路の案内標識の作成と設置及び案内マップの作成。 2. ロードバイクを中心にした小山田の周回コースの案内及び安全走行を兼ねた試乗会などイベント。現在「小山田の周回コース」はロードバイクユーザーには有名であり下小山田及び上小山田を周回するコースは週末を問わずバイクユーザー人が訪れます。コース内の市道「忠生 630 号線」隣接する場所か、もしくは市が現在提供できる隣接場所を用意すれば可能です。協賛してもらえる企業としては〔企業名〕が参加してくれる可能性大。コース案内、安全走行案内も〔企業名〕所属のクラブチーム（ちなみに私もその一人）からボランティアとして参加も可能です。 3. 蛍や大賀ハス < [URL] > など小山田地区の季節に応じたコース案内。	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
12	2. 整備候補地に関するご意見	
1	来訪者は車だけでなく電車やバスなども利用すると考えます。建設エリア選定にあたり、唐木田駅淵野辺駅町田駅	本施設は、小山田エリアにおける里山環境の再生と活用を推進し、将来にわたって持続可能な里山環境の保

		南大沢駅からのアクセス性の考慮も必要と思う。	全つなげることを目的として整備するものです。 整備候補地の選定にあたっては、第一にコンセプトで掲げる里山環境の再生と里山資源の活用を持続的に行うことができる場所、第二にアクセス性や事業採算性などを考慮した場所、第三に市が所有する土地の有効活用が図ることができる場所に整備したいと考えております。 貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
	2	市街化調整区域内に施設建設が可能となる確かな法的裏付けが無い現状では建設エリアから市街化調整区域は外しておいた方が良くはないか。	本施設は、小山田エリアにおける里山環境の再生と活用を推進し、将来にわたって持続可能な里山環境の保全つなげることを目的として整備することから、施設の整備にあたっては、「里山に近い道路沿い」に整備したいと考えております。 整備にあたっては、構想（本編）21ページにありますとおり、都市計画上の制限への適合や関連する法令の位置づけなど詳細な検討が必要と認識しています。 貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
	3	将来、小田急多摩線小山田駅が実現すれば、電車を使ってこのエリアに来る	整備候補地の選定にあたっては、第一にコンセプトで掲げる里山環境の

		ことができるようになるため、このことを見越して、拠点施設は整備候補エリアの③が望ましいと考えます。	再生と里山資源の活用を持続的に行うことができる場所、第二にアクセシビリティや事業採算性などを考慮した場所、第三に市が所有する土地の有効活用が図ることができる場所に整備したいと考えております。 貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
4		市有地がまとまって存在するのは鶴見川源流保水の森のある小山田エリア全体の北西部であり、今後まとまった市有地を活用することを想定すれば、拠点施設は整備候補エリアの③が望ましいと考えます。	
5		・施設設置場所として優位性 候補エリア①は多摩市から町田方面への通行が比較的容易である。山林・里山・田畑を一望できる場所もあり、散歩・トレッキングに相応しい場所である。整備が必要であるが地形を利用したマウンテンバイクを設置する場所も作れると思う。	
6		里山環境再生活用拠点施設を定めるに当たり、大竜地区も一考にあたいると思われる。都立小山田緑地に接し又、北部丘陵とのアクセスにも良く、地区外からの来訪者にとっても休息の場として地理的に良い場所になると思う。散歩にて訪れる人達にとっても、自転車で通る人も多く、車でも交通量は多い地区のため、民間企業を活用するにおいても多くの集客を期待できると思う。各候補地それぞれ特色やメリット・デメリットもあると思うが、総合的に大竜地区が良いのではないかと考える。	
7		現在、大龍地区にはメイン道路が南北に走る忠生 450 号線があり、扇橋から大泉寺方面に行く忠生 436 号線（幅員は狭い）の 2 本で、まずモノレール路線の C 案であった計画道路と忠生 436 号線を幅員 10m 位の、大龍地区の基盤	

	道路を作る,この道路を作るには長い期間がかかるので、取りあえずは忠生450号線沿いに私有地・民有地を利用し拠点を1カ所作り、素案の調査結果にあるような活動を最初は小さい規模でスタートすれば良いと思います。 尚、当地区には里山の景観を損ねるようなモノレールは今となってはいりません。 将来的には、この2本の道路に里山等を生かした拠点を、土地所有者の承諾を得て拠点を増やし、山林等の荒れた所を少しずつ整備し散策路等や嵯峨野竹林の様に整備し、里山を堪能できるような場所として大勢の方に来て頂くような大龍地区にしたい。	
8	・拠点施設の場所 町田市道3・4・40沿いに用地を確保して、広い駐車場のある商業施設を誘致できるといい。施設は2Fとし、一階はやや高級な食品・日用品を中心とする店舗（地元野菜の直売などもすすめる）。2Fはイートイン、喫茶スペースと、市民交流スペースを確保する。交流スペースには、北部丘陵の自然を紹介するスペース、学習室のほか、調理室も備えた、市民交流のための会議室もあっていい。	拠点施設の整備場所につきましては、第一にコンセプトで掲げる里山環境の再生と里山資源の活用を持続的に行うことができる場所、第二にアクセス性や事業採算性などを考慮した場所、第三に市が所有する土地の有効活用が図ることができる場所に整備したいと考えており、整備の内容につきましては、構想（本編）13ページに記載する機能を備えた施設としたいと考えております。 貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
9	里山環境保全計画の下部として基本構想素案が示され拝読いたしました。 ①P4・実施結果のまとめ方について ・施設の役割・機能については了解しましたが、整備に適した1カ所について	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ・本施設の整備にあたっては、都市計画上の制限への適合や関連する法令の位置づけの整理など詳細な検討

	て疑問があります。P14・P16 にも関係しますが、今回提示している「里山に近い道路沿い」と明記していますが、候補エリア②について沿道が調整区域での交流館を作ることができるのか？調整区域では公共事業であっても施設を作るとかはできないはずですが、それでも候補エリアとして考えるのか？結局は、大谷テントから小山田バス停（折返し）の区間か、候補エリア①の場所でしか交流館は建設できないのでは？ ・候補エリア①の場所であれば、都立小山田緑地・奈良部谷戸・東谷戸などの散策する来訪者が近年増加している。交流館が出来る事で地域住民が来訪者のための憩いの場である交流館を提供できるのではないかと感じている。今後の検討として考えていただきたい事 ・道路沿道沿いに交流館を作ること。交流館を作った後で構わないので、東谷戸のモノレール予定地だった、道路計画線（小野路から扇橋）、P18（市の上位計画との整合の図面）を実効性のあるものとしてほしい。東谷戸の里山景観を残しつつ道路計画を進め、市役所の用地並びに〔企業名〕（民間活力）の土地活用をすることで、里山を使ったテーマパークが出来れば、もっと地域が活性化すると思います。	が必要であると認識しております。ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。 ・また、場所の選定にあたっては、第一にコンセプトで掲げる里山環境の再生と里山資源の活用を持続的に行うことができる場所、第二にアクセス性や事業採算性などを考慮した場所、第三に市が所有する土地の有効活用が図ることができる場所に整備したいと考えております。 ・地域の活性化につきましては、いただいたご意見を参考に検討させていただきます。
10	「小山田エリアにおける里山環境再生・活用拠点施設の在り方に関する基本構想」に関する意見について ・10ページの拠点施設の方向性について、一つ目、三つ目はその通りだと思います。二つ目の「地域住民が愛着	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ・ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。

	を持ち地域のシンボルとなる施設」の地域のシンボルとなる施設という部分については、地域のシンボルは自然豊かな丘陵地や谷戸の風景で、施設自体はシンボルというより、周辺環境に調和し、風景に馴染むものが望ましいと感じました。 ・ 14 ページに施設規模の参考として 1,500 m²とありますが、市街化調整区域内に大規模な施設を整備することは難しいため、市街化区域内の市有地を候補地として検討する必要があると思います。 ・ 風景になじみ、障害しないように、拠点的な大きな施設を配置するというよりも、小規模な施設をそれぞれのエリアに分散配置することも考えられるかと思います。小山田エリア全体の回遊性を高めるためには、施設を点在させ、徒歩や自転車で散策する楽しさを持たせても良いように思います。	・ 整備候補地の選定にあたっては、第一にコンセプトで掲げる里山環境の再生と里山資源の活用を持続的に行うことができる場所、第二にアクセス性や事業採算性などを考慮した場所、第三に市が所有する土地の有効活用が図ることができる場所に整備したいと考えております。 また、本施設の整備にあたっては、都市計画上の制限への適合や関連する法令の位置づけの整理など詳細な検討が必要であると認識しております。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。 ・ 「新しい里山づくり」の中核的な役割を担う施設についてはどこか一つの場所に整備することを想定しておりますが、例えば拠点施設から徒歩圏内に地域の特色を活かした機能を整備し、拠点施設と連携した運営を行うといった可能性はあると考えます。
11	大龍地区への施設が好ましい ①下山田大龍地区には 450 号線・緑地公園・里山百選に選ばれたならば谷戸が有り、民間の活用で考えると採算性が重要と思われるため集客・事業者誘致に有利 ②候補地については市保有ちに限らず民地の借り上げも考慮するのが望ましい ③小規模でも各候補地に数か所作った方が利用者にとっては良い ④人口減少・少子高齢化が急速に進む	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ①②拠点施設の整備場所につきましては、第一にコンセプトで掲げる里山環境の再生と里山資源の活用を持続的に行うことができる場所、第二にアクセス性や事業採算性などを考慮した場所、第三に市が所有する土地の有効活用が図ることができる場所に整備したいと考えており、整備の内容につきましては、構想（本編）13 ページに記載する機能を備え

	中、地域の歴史を伝承して行くために、地域に住む高齢者から歴史や生活に関わる昔の情報を収集して残す活動をする ⑤調べていくと歴史的な遺物も有り山の範囲も広く里山としてのポテンシャルが高い	た施設としたいと考えております。ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。 ③「新しい里山づくり」の中核的な役割を担う施設についてはどこか一つの場所に整備することを想定しておりますが、例えば拠点施設から徒歩圏内に地域の特色を活かした機能を整備し、拠点施設と連携した運営を行うといった可能性はあると考えます。 ④⑤ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
12	④P17 今後詳細に検討する事項 ・市有地ではありませんが、地権者で提供できる土地があります。候補地周辺は、小山田緑地第二駐車場（滝沢地区）脇付近の田んぼ及び畑です。民地でも検討願います。もしくは、東京都（小山田緑地第二駐車場）の土地などを検討してもらえれば。	貴重なご意見をいただきありがとうございます。ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
3. 施設整備に関するご意見		
1	カフェ等の飲食を想定している当施設では、最低限のインフラ（電気上下水道）が必要である。	貴重なご意見をいただきありがとうございます。ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
2	広大な鶴見川源流保水の森と源流域を観光資源（将来は公園とする）として発信・発展させる施設としてほしい。	貴重なご意見をいただきありがとうございます。ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。

	3	・駐車場 当該地域は公共交通によるアクセスが極めて悪く、交流拠点を有効にするためには、大規模な駐車スペースが必須と考えられる。駐車場は、数台の観光バスを含めて、乗用車 100 台を収容できる規模とし、自然散策・観光用のミニバス、電動自動車の基地などもあるといい。	事業採算性の確保の観点からも一定量の駐車場の整備は必要であると考えます。 貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
	4	・散策路 利用者は多摩ニュータウン訪問からの来客が多数になるはずなので、散策路は、地元北部丘陵内部の新たなトレイルだけでなく、むしろ「多摩の横山」散策路との総合的な連携・整備をすすめるのがいいと思う。	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
	5	下小山田に長年住んでいます。子育て世代であり、マウンテンバイクやトレイルウォーク、農業などに取り組んでいます。今回の構想を知るにあたり、この地域に必要な施設は何なのか？はたまた、本当に施設は必要なのか？いろいろと考えました。 この地域は、多くの人が自然を楽しむ一方で、ゴミや不法投棄は多く、交通の便や道路が安全ではありません。思い浮かべるのは、危険なクルマが行き交うまともな整備のされていない道路で、酷暑の中や真冬の冷たい雨の中、自転車に乗っていたり歩いていたたりする小中学生の姿。これはなかなか泣けてきます。こんな環境を放置してしまっている大人として自責の念を感じます。最寄り駅は遠い、バスは少なく、値段も高い。この地域のリアルな貧弱さがあると思います。	町田市では「町田市里山環境活用保全計画」に掲げる「持続可能な里山環境の保全」を実現するため、多様な主体と連携・協働し、時代に即した経済・社会・環境の新たな循環の構築（新しい里山づくり）により、まちだの里山を将来にわたって持続可能なものにすることを目指しています。 本施設は、小山田エリアにおける里山環境の再生と活用を推進する「新しい里山づくり」の中核的な役割を担う施設として整備し、周辺の施設や既存の活動と連携し、活動の支援や助言、コーディネートなどを行い、里山の整備や里山に関わる人材の育成や確保、木材などの里山資源の活用促進・普及啓発に取り組んでまいります。 子どもたちをはじめ多くの方に里山に触れ・楽しむ機会を創出し、里山

	そこで出た 1 つの答えが、「子どもと、地域の未来の発展のためになる施設」だったら素晴らしいなということです。観光や散策のスポットで賑わうのは良いと思いますが、子どもや地域の未来のためにならなければそんな施設は意味がないと思います。ワークショップなどを通して積み上げてきた議論を、「ただ、道の駅的なカフェや工房を作ればいい」そんなレベルから脱却して、プランを発展深化していただきたいと思います。 例えば… ① 地域の子どもが安心して滞在できる学校からの下校時に気軽に立ち寄れる。遠くの学習塾に通わなくても、勉強できるスペースがあり、オンラインで最先端の学習ができる。広大な公園を保育園児が園庭として遊べる拠点になる。将来に渡って子育てのしやすい街。 ② 新しいテクノロジーやカルチャーを取り入れる 先進的な研究者やクリエイターが中長期で滞在して、プロダクト・クラフト・アート・デザインなど、地域の人たちが未来に触れられる。世界一素敵なブックストアがある街。満員電車で揺られなくても職住近接で仕事ができる街。 ③ 小山田の特徴を発展させた店にする 〔企業名〕や〔企業名〕のような上質さがあって、大衆食堂のような日常性	に関わっていただく人を増やすことで多様な主体の連携・協働による新しい里山づくりを推進し、小山田エリアの里山環境の保全を持続可能なものとしたいと考えております。貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
--	--	---

	もある朝食から夕食まで地産地消のレストラン。焚き火を囲んでキャンプもできる地域の人々やゲストが集るコミュニティ。ライドシェアや自動運転モビリティで最寄り駅や都内にも帰宅できる。小田急線を使って新宿や都内へと食材を届ける。 次の基本計画の策定にあたり、個別の事業者にも丸投げするのではなく、若い世代や、未来のテクノロジーやカルチャー開発の専門家にも参加してもらい、全体を見通すコンセプトをプロデュースする役割のポストを設けるべきです。 参加者や関係者の皆さまのご尽力に感謝いたします。	
6	第3章 ◇機能別の整備方針について (全体的に) ・拠点施設の整備目的に、「周辺の施設や既存の活動と連携し、活動の支援や助言、コーディネートを行う」と書かれていますが、それが整備方針の中に反映されていないように思います。このような中間支援的な機能を持たせるためには、一般の利用者向けの機能だけを考えるのではなく、「新しい里山づくり」の担い手が情報を交換・共有し学び合い、各施設や活動で展開するような場にもなるように考えるべきではないでしょうか。 (方針1) ・里山を活用したアクティビティについて書かれていますが、もっぱら使う	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 (全体的に) ・本施設は、小山田エリアにおける「新しい里山づくり」の中核的な役割を担う施設として整備し、里山の整備や里山に関わる人材の育成や確保、木材などの里山資源の活用促進・普及啓発に取り組んでまいります。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。 (方針1) ・ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。

	側面ばかりが書かれていて、作る側面が書かれていません。たとえば、里山再生や歩道整備などのアクティビティも、ボランティア活動としてだけではなく、社会貢献・地域貢献型のアクティビティ、体験型のエコツーリズムとして、「新しい里山づくり」の中で勧めていくとよいと思います。 ・アクティビティとしては、マウンテンバイクやトレイルランニングなど、大人数で利用すると自然に深刻な影響を与えるアクティビティを示すよりも、自然散策、フットパス歩き、トレイルウォーキングなどを先に示す方が適切ではないでしょうか。 ・アクティビティとして利用する人たちは、里山の状況を随時モニタリングする役割を果たしますので、季節ごとの自然情報や危険箇所の情報などを積極的に寄せていただき、情報の収集・発信への参加を促す仕掛けづくりも検討していただきたいです。 ・人づくりは重要な機能ですから、里山づくりの担い手が集える部屋、講座・研修目的に使い勝手のよい部屋、雨天時にも屋外で身体を動かせるような空間等があるとよいと思います。 (方針2) ・里山資源の循環を学べる場とするのであれば、山林だけを考えても不十分であり、農地の資源も含めた資源循環を考えるべきだと思います。町田の里山では、農地と山林のあいだに密接な	(方針2) ・農地を含めた里山全体の循環につきましては構想（本編）13 ページ 3 機能別の整備方針「方針1」の「新しい里山づくりの理解促進」において情報発信してまいります。木材利用につきましては、山林の再生により発生した木材を処分することなく活用することで里山の保全につながっていくことを周知していきたいと考えております。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
--	---	---

	関係がありましたし、「新しい里山づくり」においても、山林だけを対象としていてはポテンシャルを生かせないでしょう。 ・木材資源を活用するだけであれば、川上から川下に資源が流れていくだけで循環ではありません。「新しい里山づくり」では、どのような資源循環をめざしているのでしょうか。地域の資源循環を 1 つのモデルとするならば、山林・農地を一体化してイメージを示すべきだと思いますし、何か新しいアイデアがあるならば、それを示していただくとともに、その中での拠点施設の役割を説明していただきたいです。	
7	・地域住民と来訪者のどちらも活用できる施設であること。 地域住民には、憩いの場であったり、子供の遊び場としてのフィールドアスレチックやデイキャンプ・バーベキューなどで親と一緒に活動できる施設で地域住民にとっても利用価値のあるものであること。 来訪者は、比較的多いところだと思っている。ハイキング・サイクリングなど訪れる人は多いと思っている。これらの人々に小山田の里山を紹介する場所として施設が有効になると思う。そば・うどん・弁当の販売や食事スペースの提供・トイレ・食料の販売の場として利用する。又、当地自然の紹介として、動物・植物・昆虫などのパネル展示。周辺の歴史や行事のパンフレットや四季の写真などによる広報。自転車（ロードバイク）駐輪場の併設により通り過ぎる人にちょっと足止めが出	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。

		来る場所になるのではないか。	
8		・体験学習の場として 竹林を利用した伐採・細工物作成などの体験学習の場の拠点施設にする。 (又、田植え・稲刈りなどの見学)	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
9		下小山田大龍地区のならばい谷戸などの魅力を生かし交流館などの施設を設置してはどうか？(売店)駐車場なども必要。小規模で数カ所作るのも良いと思います。各町内会や神社、寺の会員や氏子など地元に関係する方達にも積極的に働きかけるなど町全体で盛り上げて行く体制を作って行くなど	整備候補地の選定にあたっては、第一にコンセプトで掲げる里山環境の再生と里山資源の活用を持続的に行うことができる場所、第二にアクセス性や事業採算性などを考慮した場所、第三に市が所有する土地の有効活用が図ることができる場所に整備したいと考えております。 「新しい里山づくり」の中核的な役割を担う施設についてはどこか一つの場所に整備することを想定しておりますが、例えば拠点施設から徒歩圏内に地域の特色を活かした機能を整備し、拠点施設と連携した運営を行うといった可能性はあると考えます。 貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
10		●将来設備について 木工の工房についての提案 1. 家具など従来の木工はもちろんですが、施設内のアクティビティなどで利用出来る乗物など子供や大人が楽しめる遊具の作成。 すべて完成させているのではなく子供が自ら手を加えて完成する要素を残す	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。

	など、訪れた人が工房を有効利用できる要素を残したプロダクツ。 木だけでなく鉄など異素材と組み合わせることで従来の木工とは違った広がりが出るかと思います。	
11	数年前から「団体名」という団体として、市有山林などをお借りして、雑草刈りや清掃などのボランティア活動を行ないながら、マウンテンバイクや様々なアウトドアアクティビティや自然体験を楽しめる里山環境を地域や来訪者に提供させてもらっています。 通年で市民に向けた里山体験イベントも行っていますが、近くにトイレがないことや駐車スペースが少数に限られていることなどにより、今は登録会員に限定した小規模イベントの開催が中心となっています。オーバーツーリズムの問題を起こさないためにです。 また参加した子供や女性の参加者からは、洗浄機能などのついた清潔なトイレが欲しいという要望も我々にいただくことができました。現状では、コンビニや小山田緑地の管理事務所にあるトイレを利用することが多いようですが、既存施設までが遠いことや、その駐車場が満車でトイレが利用しづらいなどの悩みを聞くこともありました。 高機能なお手洗いの設備は運用コストもかかりますが、オーソドックスな公衆トイレと高機能トイレを併設し、後者を電子決済支払いを使って有料化するなどの手法も良いのではないかと思います。 ところで、既存の里山利用者のフィー	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。

	ルドや回遊経路を調査した上で、それを阻害しない新しい施設の計画を行なって頂きたいです。 北部丘陵地域の里山のあちこちにその魅力が点在しており、マウンテンバイク愛好家やトレイルランニング愛好家が利用している「トレイル」と呼ばれる既存の里道は、それ自体が町田市にとって重要な観光資源です。 そのためには、現在小山田の既存の里山フィールドがどのように利用されているかの具体的調査も実施した上で、既存のフィールドと新しい設備が共存できるプランを、地域の方々や利用者が一緒になって検討していただきたいと思います。 横浜ズーラシア周辺に 10 年ほど前から建設された横浜市の大型の里山体験設備は、利用実態の調査がないまま有料タイプの施設を里山の中心に構えたせいで逆に通行が不便となり、施設周辺の里山の利用価値が下がってしまいました。それまで市民ボランティアの力によって賄われていた里山整備が困難になり、里山を利用しやすかった環境が荒廃するなどして、それまで気軽に利用できた里山の魅力を損ねてしまったという実例もあります。 最後に、ボランティア団体として小山田の里山に関わらせていただいています。ここまで地域の方々に受け入れていただき、ご理解いただけていることに感謝しています。	
4. 地域連携・民間活力導入に関するご意見		
1	【民間活力導入の視点】 ・民間活力の導入は方向性としては当然であると思いますが、事業採算性確	事業の実施にあたっては、地域にお住いの方や地権者のご理解やご協力のもと進めていくことは重要である

	保のために、山林や農地の地権者が犠牲（不利益）を強いられることなどがないように、行政が監視していく仕組みも必要であると考えます。	と認識しております。 貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
2	地域の様々なリソースを棚卸・整理し有効活用すべき。特に人的資源はデマンド（需要）としてではなく、サプライ（供給）側として検討することで、新たな資源の活用が見えてくると思う。つまり、住民をお客様としてではなく、事業の主体として、事業の実施者としてサービスを提供する側として、活用する考え方をとるべき。特に、限られた予算や民間の参入障壁については、住民の協力というだけでは不十分で、住民のリソースを前提とした事業構築を行うことが、継続的であり現実的であると思う。具体的には、労働力の提供や一定の消費を約束することなど、資金の拠出や民有財産の拠出である。それはおおよそ、かつての農村社会では当たり前であった考え方という、古くて新しい仕組みとも言える。 市の遊休資産（土地）活用や新たな建物の計画などのハード面が先行している印象だが、仕組みやルール、情報の整理や公開の仕方などソフト面での検討が不十分である。特に、コストパフォーマンスとしては、ソフト面が有利であるが、関係者間での協議や住民間での話し合いが必要であり、強力な推進者なども必要であり、市の不得意とすることだと思うが、そこは住民や地域を巻き込み、時間をかけて会議体を	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 事業の実施にあたっては、地域にお住いの方や地権者のご理解やご協力のもと進めていくことは重要であると認識しております。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。

	作りながら進めてながら、ルールや共通認識などを策定していくべきかと思う。 特に、その意味では地域との連携や協議が不可欠であり、地域との協議や執行部（市）とのコミュニケーションが不十分であり、協議の場の設定が必要と思われる。現状の市と地域とのコミュニケーション体制はほぼ成立していない。	
3	②P9・調査結果概要の件で ・もし検討エリア①の市道 450 号線で交流館などが立つのであれば、大龍地区（大沢・竜沢地区）でお祭りなど協働していく準備はある。	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
4	③P 1 2 里山に関わる人・・・（現状報告） ・①はマウンテンバイクなど、東谷戸・奈良部谷戸を現在散策しながら走行しています。 ・②ロードバイクは、土曜日・日曜日市道 450 号線を走行し登りのセブンイレブンが休憩場所となっていますので、交流館が出来れば、呼び込むことが出来ます。 ・④山林の整備及び体験学習は、〔団体名〕及び〔団体名〕が行っています。今後も継続予定です。 ・⑥⑦は地元大龍地区が行うことが出来ます。	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。

5	⑤P 2 0 民間活力導入の視点（１）事業方式の検討 ・ 4 つほどケースが記載されているが、小山田エリア①～③までのエリアは調整区域がほぼ占めており、エリア①の大龍地区しか市街化で使える用地が無いように思います。ただ、市の公共用地が無いいためケース 4 の民地を使うしかないと思いますが。	本施設の整備にあたっては、都市計画上の制限への適合や関連する法令の位置づけの整理など詳細な検討が必要であると認識しております。 貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
	6 ・ 既に地区内にいる NPO 法人などとの関係性について、もう少し掘り下げて欲しいと思います。	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
5. 施設運営に関するご意見		
1	収支採算性を確保するためにも建設エリアの徒歩圏内住民に対する意識調査が必要だと思う。	構想（本編）21 ページにありますとおり、本施設の運営が持続可能なものとなるためには、事業採算性の確保が課題と認識しており、施設近隣にお住いの方が気軽に利用できるなど、平日の施設利用の促進を図る必要があると認識しています。 貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
2	第 4 章 ◇事業採算性の確保 平日の施設利用の促進が謳われていますが、里山を利用した企業研修、インバウンド需要に応える里山ツーリズムの企画運営などを検討してもよいと思います。	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
3	⑥P 2 1 事業採算性の確保 ・ 現在、小山田緑地は散策などをする	貴重なご意見をいただきありがとうございます。

	来訪者が土日だけでなく毎日、訪れているので民間事業者が店舗を出しても収益は上がるし、市道 450 号線での車の往来も多いため、立ち寄りやすい立地に建設すれば採算は取れると思いますので検討願います。	ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
4	1 小山田エリア全体としてどのような特色（オリジナリティー）を出しているのか、他との差別化が重要 市内だけでも 4 か所の里山エリアがあるので、それぞれの特徴がないと人は来てくれない 第 2 回のワークショップでは、魅力として①自然が多い ②景観がよい ③手付かずの、または車が入っていけない道があるのがいい などが挙がっていましたが、これらで差別化を図るのであれば、例えば… 魅力①自然が多い 「木が多い」ということであれば…（※木に興味がある人がどれだけいるのかを把握する必要があると思います） 1 エリア内の様々な木々を巡るツアー ※木に詳しい方が必要 2 調理やお風呂、暖房など全てを薪で賄う薪生活体験施設を作る ※宿泊施設を設けて大変さも体験してもらおうとモアベター 3 新築住宅の大黒柱を選ぶツアーを実	小山田エリアの特色を出し、差別化を図っていくことは非常に重要だと認識しています。 貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。

	施 ※可能かどうかは不明ですが、考え方としてはアリではないかと思います。 例) [URL] 4 [企業名] のコーヒーのような、ここでしか飲めない、食べられない物を提供する ※開発できるのかが問題ですが 「野生動物が多い」ということであれば… 1 (夜の) 野生動物 (の声?) 観察小屋を作る ※長池公園付近にもあるようですが… 2 小山田エリアに生息する野生動物に特化した博物館を建てる 魅力②景観がよい 1 拠点施設に、高い場所から眺められる展望台を作る ※何度も登ってもらうための工夫も大事。例えば… 設備的には360度見渡せるが、目隠ししてある部分もあり一度に全方位を見ることはできない(8等分?した目隠し板をランダムで配置する)→目隠し部分は日によって変える(隠す場所もランダムに変える)→見たい方位が見られるまで何回も登ってくれる?	
--	---	--

	2 里山に興味を持ってもらう方法 エリア内に幼稚園や保育園を誘致する AR 等も活用することで、大きな建物は要らなくなるかも？	
5	・施設の継続性について 住環境・道路環境による変化に対応することを考慮しておくことが重要になると思う。施設を維持させる為に支出が大きくなり負担ばかりにならないよう、収入が計算出来る内容とし、施設の規模や内容を吟味し、施設の維持継続させる方向について見直しをかける。	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 構想（本編）21 ページにありますとおり、本施設の運営が持続可能なものとなるためには、事業採算性の確保が課題と認識しており、引き続き検討してまいります。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
6	・施設の PR 最寄りの駅・バス停に施設紹介の QR コードによる PR をし、利用者への広報活動をする。	貴重なご意見ありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。
6. 地域の街づくりに関するご意見		
1	小山田地区は緑豊かな地域であるが、交通インフラが未整備で、せっかくの緑が十分に活用できていない。十分に活用するためには、交通手段の整備と現有の緑資源がどのようなものがあるか、さらにこの地域にすむ住民がなにを望んでいるか、の三つを組み合わせる必要があります。この地域では、現在いくつかのまちづくり活動が展開されていて、まちづくりに対する意欲が高まっています。 まず必要な交通面の今後の計画としては、モノレールの延伸とそれに伴う道路整備です。モノレールのルートはすでに決定されていて、あとは正式な	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 本事業については、これまで地域の方々と共に、ワークショップや意見交換会を実施し、検討を重ねて参りました。 今回公表しました構想素案の内容は、2022 年度に実施したワークショップ及び 2023 年度に実施した意見交換会にて、地域の皆様からいただきましたご意見を受けてまとめております。 事業の実施にあたりましては、引き続き地域住民・団体など多様な主体と連携・協働しながら進めてまいり

	認可を待っています。道路については、都市計画道路 3・4・40 号線を次期道路計画に格上げし、実現をはかるように、地元や町田市も動き出して、東京都に対する働きかけも始まっています。この道路が実現すれば、日野市や八王子市中心部と直接結ぶ道路となり、交通量も飛躍的に増加する見込みであり、道路沿いに里山拠点を設置する有力候補となります。また、長らく工事中であった都道 630 号線は近々完成する予定であり、この道路沿いも拠点設置の有力候補でしょう。 また、この地区で、多くの訪問者を集めています都営の小山田緑地も魅力あるスポットであり、まだまだ多くの活用の可能性を秘めています。 さらに、小山田地区には、未利用山林や緑地が多く、また現在もいくつかのグループが里山の整備や活用に取り組んでいます。 里山づくりを推進する施設で、経済性を確保しながら、持続的な活動が可能な拠点施設を維持するためには、現在の資源と将来の見通し、さらに住民の希望や現在の活動グループなどを含めた、丁寧で、時間をかけた話し合いをどこまでしっかりできるか、にかかっています。ぜひ地元のまちづくりグループや町内会自治会、さらには、里山にかかわっている活動グループの代表者などを加えた丁寧な議論をできる場を作って、しっかりした、しかも住民に支持された計画づくりをお願いします。	ます。
2	大竜地区は市道 450 号線にそった、大沢・竜沢地区で世帯数は 160 ? の集落	

	で道路周辺 100m内は市街化地区であります、高齢化と後継者不足により多くは駐車場か荒れ地となっています。 山林竹林水路も整備されることもない。当地区は「大竜地区街づくりを考える会」平成 30 年 5 月に第一回の会を開催致しましたが多摩都市モノレールの町田市への延伸ルートが東京都の審議会に於て「町田市の方針」と異なるルートで答申がありました。審議会の内容は「極秘」とのことで都の「整備局長」より「確定ではない。」との返信がありました。しかしながら従来の経緯を見て、地域の現況を踏え新たに「2024 年から、「街づくり「大竜地区まちビジョン」を進めることとなりました。 第一の目的は、地域コミュニティの結束の為に地域の伝統行事活性化を進め住民同士が同じ目的を持って生活出来る環境を造ること。 第二は、地域内での自然な動物、植物!!農産物!!河川!!昆虫!!草花!!等々の里山でなければ見られない自然の環境の中ならではの資源の保全と管理による地域の魅力向上を図る。 地域の活性化と、緑地、里山の保護、維持は、地域住民の努力と協力、共調が必要であることは言うまでもないが、何より行政の参画と事業者の知識、経験が必要であります。 公共用地の活用を含め民間事業者の知識と経験が必要と思います。経験有る業者との共同により里山事業の推進と維持発展が有るものと思います。 町田市は高齢化と人口の減少が進んで	
--	--	--

	いると聞きます。 今後はさらに高齢者の増加が見込まれ、又障害者の増加も当然と思われます。 自然環境にめぐまれた里山地域内に施設建築の促進を図ることが良いと思われます。 「追信」、市議、都議、国議員さんはなぜ地域活性化の為に相談者として協力しないのか不思議に思います。 以上	
3	下小山田大龍地区のあり方について東谷戸地区および奈良原地には、都市計画道路（多摩市南野→扇橋一大谷テント前一小山田桜台団地）が有りこの道路を一番先に完成させることが大事である。 道路が出来れば、モノレールをもとのa案にもどすことが出来ると思っている。 大龍地区に駅を作れば集客地点に成る東谷戸に道の駅的なものを作り、地物製品の販売、又調整区域の山林の整備し緑を生した公園の整備し親子づれで遊べる施設、〔企業名〕の土地を利用する為に〔企業名〕にも参加を依頼する、ゴルフ場の客、丘陵病院の客、小山田緑地公園の客子どもモノレールの集客も出来るし、建設費も時間も最低でできると思う、今の様に点在する市有地を利用するには現在の農道を整備し、自動車が自由に動けなければ採算が取れる様な集客はむりであろう。これと言う目玉に成る様な施設がない状態では事業として成り立たないと思う。 小山田地区には商店がなく老々介護の	貴重なご意見いただきありがとうございます。 今後も、地域の特徴を活かしたまちづくりを進めてまいります。

		家庭が多く成る今日、大竜地区と大泉地区には町田市内でもっとも僻地でありスーパー的な店がどうしても必要である。 そのためには市街化の地点の土地の用途地区のみなおしをしてほしい。 先祖伝来の土地を調整区域の為利用出来ないだけでなく、売却も出来ないの で地主は非常に苦労していることを考慮してほしい。	
	4	・どんな施設であっても、地区の中心的存在となり、地区の人々の主たる交流の場になることが求められます。既存のイベントなどの場としての活用もある程度、想定してほしいと思います。 ・地区の人々が集う、居場所となり、そこで地区同士や、地区を訪れる人との交流が生まれるような場所になると良いと思います。	貴重なご意見をいただきありがとうございます。 ご意見の趣旨については、今後の取組検討の参考にさせていただきます。